



雪の下(ゆきのした)科。
 ● 開花時期は、6/1～7/15頃と言われ梅雨時に咲く花という印象がありますね。曇天にピンクや青の鮮やかな色が映える美しい花です。最近では色々な品種が出ており、5月初旬から花屋さんの店先で見かけます。
 ● 名前は「あづさい」が変化したものらしく、「あづ」は「あつ」(集)「さい」は「さい」(真藍)で、青い花が集まって咲くさまを表しているようです。日本原産の花で、色がついているのが額の部分、花はその中の小さな点のような部分だとか。花の色は土が酸性かアルカリ性かによって変わると言われますが、そもそも遺伝的に色は決まっている、青→紫→ピンクと緩やかに変色していくものもあり、決定的な根拠はないようです。紫、ピンク、青、白など色々楽しめます。

4/6 SAT 平成31(令和元)年度 **事業計画発表会**




4月6日(土)病院長より平成31(令和元)年度の事業計画が発表されました。今年度、最初の土曜日に行われる事業計画発表会では、その年の当院の方向性が示され、ここを起点に新たな目標に沿って、各部署、個人が目標を立てます。病院全体でしっかりと目標達成していくことで、より質の高い医療、満足度の高い病院を目指しています。事業計画発表会では、同時に、新年度の組織人事発表、昇格者の辞令授与も行われました。

事業計画は「30年度の総括」とし、電子カルテ分析システムM.E.N.T.A.T.や認知症初期集中支援チーム、依存症治療プログラム「ほれほれ」の稼働など新たな試みについても報告されました。そして「医療データとその総括」がなされ、「新棟構想」についても触れられています。最後に「各部署の事業計画」として杏和会全部署への期待と今年度の方向性が示されました。

事業計画の後、夕刻からは新人歓迎会をメインとした懇親会が開催されました。4月1日入職の42名に加え、昨秋以降の入職者が紹介され、現職員との懇親の場を持ちました。

4月はこのころから、部門別事業計画、委員会会議の事業計画発表会と病院行事が続きます。年度はじめの大切なイベントです。計画を立てしっかりと達成していくことで、地域、社会の要請に応えていけるよう、なお一層、精進してまいります。地域や、医療機関の皆様には、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

7月7日のクールアース・デーは、みんなが地球を想う日です。
 2008年のG8サミット(洞爺湖サミット)が日本で7月7日の七夕の日で開催されたことを契機に、毎年7月7日がクールアース・デーと定められました。
 これは、天の川を見ながら、家庭や職場において、地球環境の大切さを日本国民全体で再確認し、低炭素社会への歩みを実感するとともに、それぞれができる地球温暖化対策の取組を推進するための日として設けられたものであり、夏至(2019年は6/22)や七夕夜にライトアップをやめて夏の星を眺めるといった試みなど各所でなされています。当院も環境省のライトダウンキャンペーンに協賛しています。地球にやさしいエコ活動皆さんは何かされていますか?



■外来診察表
 外来診察時間/9:00~12:00(受付は11:30まで)
 平成31年2月1日から各医師の診察を各曜日・各診察室で行います。

	月	火	水	木	金	土	
診 察	1 診	黒田	土井	濱田	横田	黒田	横田
	2 診	花房	横井	松島	戎	横井	
	3 診	松島	亀田	植田	白銀	萩野	植田
	4 診	和田	三浦	松下	仲里	国本	小笹
	5 診	佐野	山田	福島	加納	車井	松村
	6 診	柴田	長谷川	岩井	吉川	小林	
	7 診	山本		小深田	久保	京田	小深田
	8 診	熊取谷	橋本	西村	大村		熊取谷
	9 診	上坂	柏木			土井	安藤
	診(心)	田中		中井			

- 診療科目**
 精神科/心療内科/児童精神科/内科/歯科/小児科/放射線科/神経内科
- 病床数**
 ●EPU(精神科救急)病棟 212床(C1,E1,H2,H3病棟)
 ●児童精神科病棟 30床(D1病棟)
 ●垂急性期病棟 120床(B2,C2病棟)
 ●精神科急性期治療病棟 60床(D2病棟)
 ●メンタルケア(精神科急性期治療)病棟 35床(E3病棟)
 ●老年期精神疾患病棟 60床(D3病棟)
 ●MPU(精神科合併症治療)病棟 53床(H1病棟)
 ●精神療養病棟 60床(F3病棟)
 ●認知症治療病棟 60床(F2病棟) 計690床

*医師の急な都合により変更・休診となることがございますので、予めご了承ください。
 (ご紹介いただく際は予めご連絡をお願いいたします)



- 関連施設ご紹介**
- 認知症疾患医療センター ☎072-278-0233
 - 訪問看護ステーションふれあいサテライト「浜寺石津」 ☎072-279-1631
 - グループホームあんずの郷 堺市中区八田北町309 ☎072-278-2233
 - 地域生活支援センターゆい 堺市中区深井沢町3324 FUKAIビル1F ☎072-277-9555
 - 堺市発達障害者支援センター アプリコット堺 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内3F ☎072-275-8506
 - 医療福祉相談室(直通) ☎072-278-3768
 - 就労移行支援事業所 エンワーク 堺市中区深井清水町3544-3 アンシャンテ深井1F ☎072-270-3318
 - 居宅介護支援事業所 ☎072-278-0488

基本方針

人権を重んじ、患者さんやご家族の「こころ」に寄り添ったやさしい医療を提供します。

質の高い医療を提供するため、すぐれた医療人を育てます。

「光と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地域の拠点病院として、保健・医療・福祉に貢献します。

信頼される医療サービスを提供するため、経営の健全化につとめます。

2016.4.1 改定

講演会

「知ってほしい！私たちの感じ方」
～発達障害のリアル～

4月14日(日)は堺市産業振興センターにて堺市子ども家庭課との共催で講演会「知ってほしい！私たちの感じ方」発達障害のリアル」を開催しました。発達障害のある方の中には視覚や聴覚をはじめ味覚や皮膚感覚、痛覚といった様々な身体感覚が非常に敏感または極端に弱く、日常生活や社会生活に支障が生じている方が多くいらっしゃいます。しかし、感覚自体は本人しか感じることができないため、その不都合さを周囲になかなか理解してもらいにくいという現状があります。そのため今回、堺市発達障害者支援センター「アプリコッ卜堺」では発達障害のある方の感覚の感じ方について広く市民の方に知っていただくため、啓発活動の一環として講演会を行うこととなりました。



講演会の冒頭ではアプリコッ卜堺所長より発達障害のある方の感覚過敏についての概要を説明しました。その後、堺市内で発達障害の自助グループ活動を展開しているさかいハッツ友の会代表ほか当事者2名の方にご登壇いただき、周囲からは分かりづらいうご自身の感覚の過敏さや弱さからくる日常生活上の困りごとやその対策について、具体的な体験を取り上げて分かりやすく説明していただきました。「車の運転時にタッチボードの映り込みで前方が見えづらくなるため、偏向サングラスをかけて対策をしている」というお話や「周囲がざわざわする中でディスプレイオンに集中できるのは2時間が限界」というお話、子ども頃は自分の感じ方のしんどさについて説明することができなかったことなど、当事者ならではの視点からお話いただきました。

当日は当事者やそのご家族、支援者など合わせて約100名の方にご参加いただき、大盛況のうちを終えることができました。参加者からは「当事者の方から具体的なお話を聞くことができ、参考になった」「当事者の方のみが話せる内容が多く、非常に勉強になった」「たくさんさんのヒントをもらえた」あたりな説明ではなく、当事者の方のリアルな話が効けて良かった」などの感想をいただきました。今後もアプリコッ卜堺では一般市民や関係者の方に向けた講演会や公開講座を開催していく予定です。ご理解、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

堺市発達障害者支援センターアプリコッ卜堺

放置自転車の撤去について



放置自転車禁止

当院、玄関周辺の駐輪場に放置されている自転車を撤去します。
 デイケアや外来に来られる方、そして職員の自転車が置かれ、時には通路までのみ出して人や車の往来に危険なことも見受けられます。実際には放置されたままの自転車も複数台あり、それらを撤去することですムズに往來できるようにしたいと考えております。
 5月3日より持ち主不明の放置自転車に貼紙をしています。その間、移動がされなかったものは、6月3日に撤去させていただきます。警察への届け出もしており、盗難車等の確認も同時に行っています。
 自転車置場で黄色い貼紙がされた自転車が数台あるのをご覧になった方もおられると思います。玄関周辺の通路は車やバスの通りも多く、安全を重視し、今回の撤去となりました。
 ご理解、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

食中毒予防のための3原則

緑豊かな5月。今年は特に気温がぐんぐん上がっているように感じます。気温の上昇につれ湿度も上がりやがて梅雨時期に。食中毒が起こりやすいのは、これからの季節です。夏場は菌が繁殖しやすいだけでなく、身体の抵抗力・免疫力も落ち気味。暑さになれないからだに疲れがたまる時期、健康管理を万全に！

微量では問題のおこらない細菌やウイルスなども、身体が弱っていると抵抗力を超えて身体に侵入、下痢やおう吐などの症状がおこります。

食中毒を予防するには……

① つけない！

食中毒の原因となる細菌やウイルスなどを食品や調理器具に「つけない」ことが大切！手や調理器具を清潔に保つこと。これは二次感染を防ぐためにも重要です。



② 増やさない！

食品は室温で置いておかず、冷蔵庫に入れておきましょう。しかし冷蔵庫内の温度を保つため、扉の頻繁な開閉、食品のつめこみに注意しましょう。



③ 殺菌する！

梅雨時には、生ものをできるだけ控え、加熱したものを食べるようにしましょう。また、調理器具も熱湯消毒してから使用してください。



冷凍・冷蔵保存した食品も早めに、再加熱して食べるようにしましょう。

まずは「手洗い励行」大切です。



当院は敷地内完全禁煙です

院内研修表彰

4月27日(土)QC活動事業計画発表会において、30年度の院内研修参加表彰が行われました。当院では、院内研修参加ごとに2ポイント(必須研修は4ポイント)とし年度で集計し、最多ポイント部署と個人を表彰しています。今年も院長よりから表彰状の授与が行われました。

最多ポイント賞(個人・部署)両方において、当院診療部身体リハビリテーション室が受賞しました。

また、院内研修は毎年40回程度行われています。

30年度 延参加者数	2,519名 (全42回)	1回平均60.0名 (必須675名・必須以外1,841名)
29年度 延参加者数	2,515名 (全43回)	1回平均58.5名

院内研修表彰

ポイント集計 最多:部署!

1位 身体リハビリテーション室 38.3ポイント

2位 デイケア 20.3ポイント

3位 検査・放射線・歯科 18.9ポイント

※集計ポイントは個人当たりのポイント計上、職員数はH30.4.とH31.3.31時点の人数平均

尚、最多ポイントは個人で40ポイント獲得、部署平均で38ポイントは院内では驚異的な数字です。今年度は是非、この数字を超えるよう、さらに内容など踏まえ学びの機会を整えていきたいと考えます。H29は短時間の研修会実施もあり、前年より参加数を増やしました。H30も2.6%参加数は伸びています。時間と場所を限定して実施する院内研修の悪い面も、良い面も合わせ、今年度も参加数を増やしていきたいと考えます。 全体教育会議